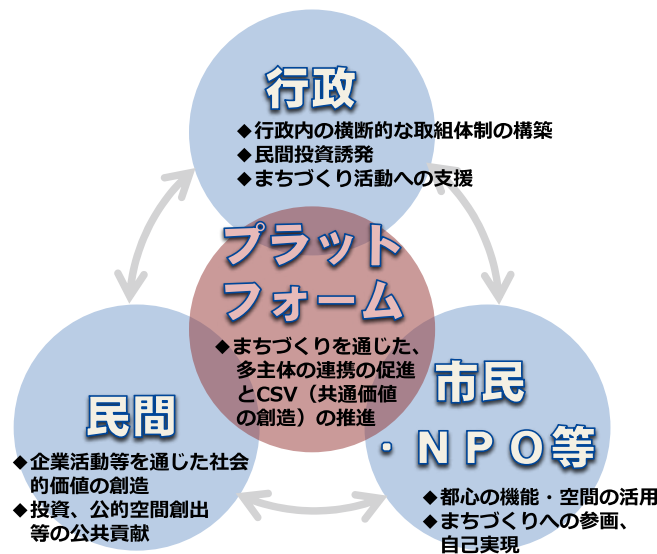


7 都心まちづくりの着実な展開に向けて

●まちづくり展開を支える各主体の役割と価値創造の仕組みづくり

○行政、民間企業、地域（市民・NPO等）といった関係主体が将来像や、まちづくりを通じた新たな都心の価値を共有したうえで、それぞれの役割・能力に応じて多様な連携を展開し、協働によるまちづくりを推進する。

○こうした各主体による都心まちづくりへの取組を束ね、関係主体間で共有される都心の新たな価値の創造を促す都心マネジメントの仕組みづくりを推進する。



●都心まちづくりの展開プログラムの位置づけ

○今後の社会情勢の変化や取組の進展状況を考慮する必要があることから、本計画年次20年間の5年毎に区切り、都心まちづくりに関わる主体間で共有された価値を実現する取組（「ねらい」とその推進に際しての中核的な「主体」、推進を支える「事業」の内容を含めた展開プログラムを定め、それに基づいて進めていく。

○当初の5年間の展開プログラムについては、「札幌市まちづくり戦略ビジョン アクションプラン2015」を踏まえて定め、その後も他の計画等を考慮し、適切に定めていく。

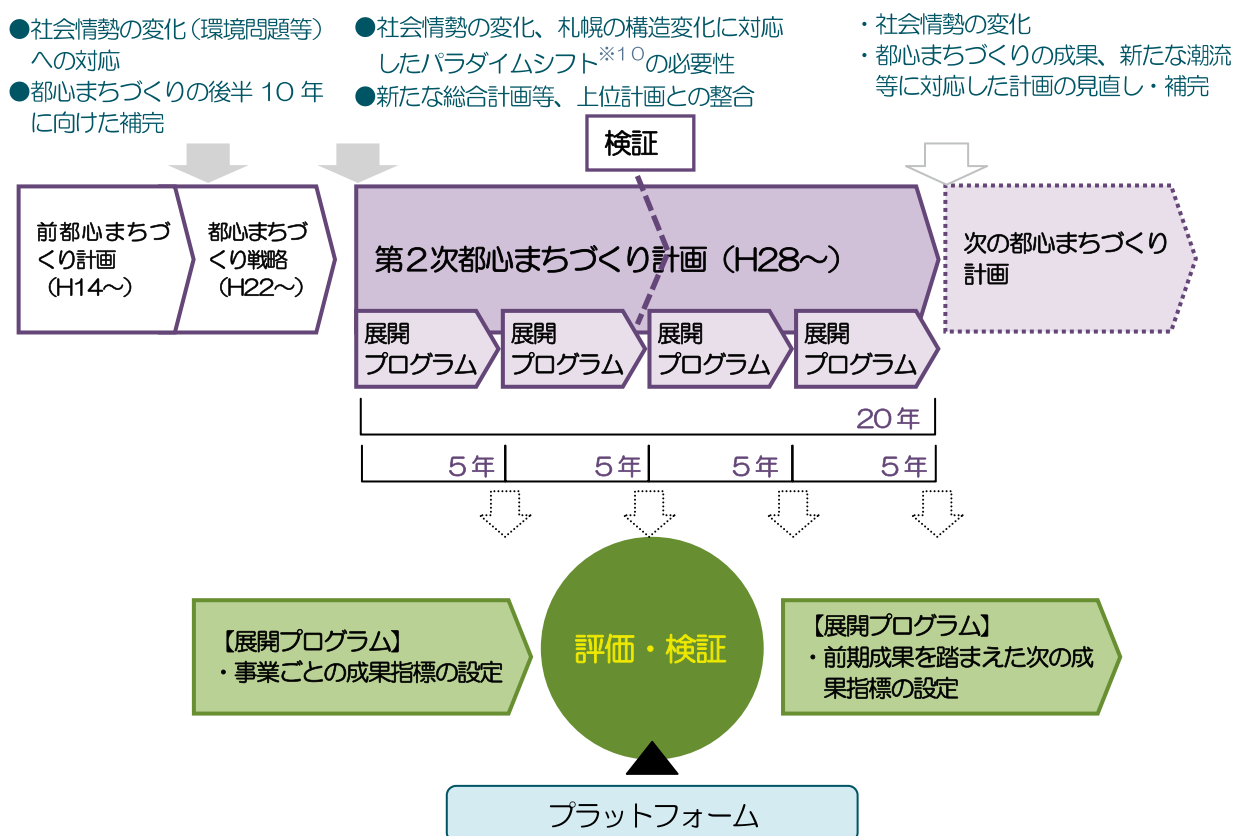


●情勢に適応した計画の見直し・更新、展開プログラムのモニタリング

○札幌並びに都心を取り巻く社会経済情勢が刻々と変化中、都心まちづくりの基本的な理念を継承しつつ、情勢に応じて新たな視点を加えながら進化させることが必要。

○時勢に適応した長期的なマスタープランの中間期における検証と見直し、展開プログラムの積み重ねの二つのサイクルから適切なまちの成長管理を行うことが必要。

○展開プログラム（5年程度）を発展的に展開し、着実に目標を実現するため、展開プログラムのモニタリングの仕組みをつくることが重要。



※10 パラダイムシフト：思考や概念、規範や価値観が、枠組みごと移り変わること。